

第65回 Kozoom28 「地方再生に婚活は有効か？」

清水健二

私の居住する八尾市内ではあちこちに市が発信する広報板があって、散歩しながらよく眺め、地域のイベントの案内などを見ている。9月の初旬に「婚活」の勧誘案内のビラが貼ってあって興味を抱いた。地域の活性化手段にこんなことを企画しているのかと知った。「婚活に参加しませんか」と、隣町の久宝寺の古刹・顕証寺が会場で、28歳～40歳の独身で男性・女性各12名。参加費1500円という。独身証明書もしくは戸籍抄本持参とある。その後新聞などを注意深く見ていると、日本各地の自治体が婚活に力を入れている記事が多くあるのを知って驚いた。

我々高齢者が歳頃だった70年ほど前は、恋愛結婚よりお見合い結婚が多く、親戚や親達の知人から仲人を介して、互いの家系などを勘案しながら、釣書とお見合い写真を持参して、親も本人も気に入ればゴールインする「お見合い」文化があった。

近年は仲人役になる人も無くなり、対象の若者達の結婚観も変化し、親達や親類縁者もやかましく言わなくなってきた。高学歴と共に仕事の関係も影響し、晩婚化や独身志望が増加してきている。例えば日本では、2023

年のデータによれば結婚年齢は男性で、31.1歳、女性で29.7歳である。50歳時点での未婚率は男性28.3%、女性17.8%という。数年後には男性3人に1人、女性で4人に1人は未婚者となるようだ。

一方結婚しても女性が生涯に産む子供の数は1.2という。この傾向は日本だけでなく、米国で1.62、韓国では0.75と極端に低い。世界1位の人口を有するインドは14億人を超えていて、50年前の出生率は子沢山と言われる5.0だったが、現在では2.0まで減少している。世界の国々は少子高齢化に突き進んでいるようで、科学技術の進展がもたらす経済発展と文明化は、徐々に人類の人口を減少させているように思える。日本の場合は生活に豊かさを求めて、常に経済拡大を指向しているものの、働き方改革とかで勤務時間が短縮され、働く人の不足もあって思うように行かず、外国人を雇用する動きになってきている。去年は230万人が海外から日本に入国し働いているが、特にベトナム人は最多の57万人である。そのベトナムでも出生率は1.9まで減少してきて、「二人っ子政策」を廃止したという。

久宝寺地区に興味のある方

久宝寺 寺内町で婚活12

久宝寺をもっと伝えたい・お薦めしたい・住んでほしい

- イベント名：久宝寺 寺内町で婚活12 ～久宝寺で素敵なご縁を～
久宝寺の魅力を感じて楽しめる 参加型の婚活イベントです
- 実施日：令和7年9月7日(日) 10時00分より開始(14時30分ごろ終了予定)
- 場所：久宝寺御坊 顕証寺 八尾市久宝寺4-4-3 ※雨天決行
公共交通機関をご利用ください 近隣にコインパーキングがございますが、台数に限りがございます
- イベントの概要
 - ◇全員と話せる機会とフリータイムタイム!!
 - ◇ボードゲームや軽食をはさんでの交流タイム!!
かんたんルール、でも奥深いボードゲームを楽しみながら交流してください
久宝寺の美味しい店のコーヒーを味わってください
 - ◇久宝寺 寺内町の紹介と顕証寺本堂を見学!!
府指定文化財の顕証寺は久宝寺地区一の見どころです
築300年を超える歴史ある本堂の見学と、住職からありがたいお話を聞くことができます
- 対象：久宝寺地区に興味のある方 (28歳～40歳独身の方向)
- 定員：男性・女性 各12名 ※申込状況により抽選になる場合があります
- 参加費：1,500円 (男女とも) (お茶、軽食代含む) ※当日支払い
- 申込方法：久宝寺寺内町で婚活12
電子申込み (Googleフォーム) または 婚活実行委員会 事務局
TEL: 080-1971-1929
受付：平日9時～17時
- 申込期間：令和7年7月19日(土)から令和7年8月4日(月)
参加していただける方には郵送にて6月5日(日)に書類を送付いたします
- 必要なもの：独身証明書もしくは戸籍抄本・本人確認資料(年齢がわかるもの)
独身証明書…本籍地の市町村にて発行している戸籍事項の
[民法第732条(離婚の禁止)の規定に抵触せず独身である事]を証明するものです

久宝寺小学校区まちづくり協議会とは…? 久宝寺小学校区まちづくり協議会
顕証寺と寺内町とは…? kyocho-jimachikyo.net

久宝寺まち協 募集

本番、久宝寺小学校区まちづくり協議会、[久宝寺 寺内町で婚活] 実行委員会 協力：久宝寺出張所

「婚活」案内ビラ

日本の若者達の結婚観の変化と共に、結婚へのアプローチの手段も昔と違ってきて、デジタル化の普及により近年はスマートフォンによる「マッチング・アプリ」を活用して、好みのタイプを探しながら結婚相手を選ぶということが普及してきている。これらの人達は複数者と交流をし、遊び半分でゲーム化し始め、騙したり騙されたりと犯罪にまで陥るケースも出て来ている。

そうした中で、自治体が地元の若者達を定着させ人口増を狙って結婚志望者に呼びかけ、イベントを企画し参加しやすいように工夫している。国から「地域少子化対策重点推進交付金」を基に「官製婚活」に乗り出し、会場をホテルやビュッフェを選び、懇談したりできるイベントもセットしている。しかし会場に現れる人は同じ若者が毎回出て来て敬遠されたりするので、鳥取県では観光名所の砂丘に会場を設け、ヨガやパラグライダーといった娯楽要素を取り込んで、趣味を通じての意気投合を狙って効果を上げている報道がでていた。広い自然の会場で対面するケースが成功率を高めているのは、行政が主催する安心感も人気の秘密になっているようである。

一方結婚相談所を設け真面目に見合い相手を探すことに傾注しているところもある。民間でも結婚相談所を営業として活動していて、結婚成就のために投資することで成功率を高め、公的な経営姿勢が担保してくれそうに思えて応募者が多いようである。欧米など日本の結婚相談所というシステムに関心があって、問い合わせが多いという。

何はともあれ過去に多かった職場結婚も、若者達の会社への帰属、定着率も悪く、家族的雰囲気も希薄になって、仲介の労をとってやろうという先輩も少なくなり、要らぬお世話をしつたがらない社会になってきている。我々高齢者が働いていた時代にはよく飲み会などで、私事に亘っての話



**運動をテーマの婚活
(鳥取砂丘にて)**



**趣味をテーマの婚活
(鳥取砂丘にて)**

題などから結婚への刺激も多かったが、現在ではそうしたコミュニケーションも少なく結婚への決意を鈍らせてしまっている。従って男女間の交流の少ない人達は結婚相談所に向かう現象になっているのだろう。

自治体が音頭をとってゴールインし出生率を上げるよう指向しているが、こんな流れはどれだけ自治体の活性化に有効かについて、私は若干疑問を感じている。むしろ地元に着定できるような雇用対策に重点を置くべきだと思っている。地域に根ざした産業の育成に国庫補助金を活用し、有利な税制の仕組みを設け大手企業の誘致に務めるべきだろう。「言うは易く行い難し」とはいえ、一歩でも前進させる政策が地方再生につながる大道ではなかろうか。



懇親会による婚活



懇親会による婚活風景

令和7年11月 記